

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所さくら		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 6日		2025年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 2月 18日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 18日		2025年 3月 1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所では、適切な人員配置と専門性の維持に力を入れており、職員研修を継続することで、保護者や施設からの信頼を得ています。特に子供のニーズに即した支援を提供する体制が評価されています。	訪問支援計画に基づき、子供が楽しみながら支援を受けられる環境を提供しています。これは、子供自身が意欲を持って活動に参加するための工夫の一例です。	支援ガイドラインや計画内容の再確認を職員間で定期的に行い、実践に確実に反映させるプロセスを導入する。
2	子供の特性や状態に柔軟に対応できる支援体制が整っており、状況の変化に迅速に適応して対応する姿勢が強みとされています。	家庭内や訪問先施設での情報共有をスムーズに行うため、具体的でわかりやすい情報伝達を実現しており、保護者の満足度向上に寄与しています。	家族向けの研修プログラムや相談会の実施時間を、保護者が参加しやすい時間帯で再検討し、オンライン形式も取り入れる。
3	保護者との密接な連携を大切に、迅速かつ適切な情報共有が行われています。このような連携体制が、家庭内でのサポート強化にもつながっています。	保護者の意見を積極的に取り入れ、それをもとに支援計画を改善・進化させていく姿勢が評価されています。	計画の実施状況を振り返り、必要な場合には柔軟に内容を見直すことで、より質の高い支援を提供する。

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>保護者との説明や情報共有の際に、内容が抽象的になりがちで具体性が不足している場面があります。</p>	<p>保護者が多忙なスケジュールの中で、研修やイベントに参加できる機会が限られている点が課題となっています。</p>	<p>保護者や訪問先施設に対して、緊急時対応や支援内容をより具体的かつ分かりやすく説明する機会を増やす。</p>
2	<p>緊急時対応について、保護者や訪問先施設への周知徹底が十分ではない場合があり、明確な連携が求められます。</p>	<p>職員間での情報共有が頻度や質において一定しておらず、統一された対応が難しい場合がある。</p>	<p>家族支援プログラムや情報共有をオンライン形式で提供し、いつでもアクセス可能な環境を整備する。</p>
3	<p>一部の保護者がSNSやホームページの情報発信を見逃してしまう可能性があり、情報伝達の改善が必要です。</p>	<p>訪問先施設的环境や条件の変化に迅速に対応するための柔軟な体制構築が必要です。</p>	<p>訪問支援計画やガイドラインの内容を定期的に確認し、職員間での共有を徹底することで支援の質を向上させる。</p>